

## わたしの評価方法 ～「太平洋戦争に関する調べ学習」における評価～



札幌市立平岡中央中学校 橋本敏昭

### 1 はじめに

「太平洋戦争に関する調べ学習」において、生徒たちが事実認識をふまえて、歴史的事実の因果関係や歴史的考察が多角的に整理されているか、どのような評価ポイントを設定して、どのように評価するのか、また、設定した評価に対する指導について実践例を報告する。

### 2 基本のおさえ

戦争を扱う際には国家の視点だけではなく、教科書「ある少女の日記」(p.211)「それぞれの敗戦①～③」(p.212)のように個の視点からの考察が多角的なもの見方・考え方を育てるうえで欠かせない。教科書「…学童疎開や空襲、出征など戦争体験のある人に、聞き取り調査をしてみましょう。」(p.208)などの学習テーマが紹介されている。このような学習は、社会的事象を他人事ではなく、自分のこととしてとらえさせる手立てとして有効である。

国家的レベルの視点だけでは戦争の悲惨さが見えてこない。また、国家と個のかかわりに気づき、構造的にとらえるような場の設定が大切である。

### 3 学習計画

終戦の日(夏休み)を機会に、戦時下と戦後の国民の生活に重点をおいて調べるよう指導した。冷戦と講和(p.216～)の学習後、

- ①調べ学習の発表交流会を行う。
- ②単元を再構成する場を設定する。(既習事項を活用し、習熟させる。構造的理解を図る。)

### 4 調査活動について

#### (1) 調査のねらい

太平洋戦争に関する報道が最も多く、社会的に関心が高まるのは8月である。8月は夏休み中であり祖父母と会う機会も多い。戦争をできるだけ身近なこととしてとらえるために、戦時下と戦

後の混乱、復興の時期を生き抜いた人に聞き取り調査をすることによって、太平洋戦争に関する関心を高め、心情的側面からの理解を深めることをねらいとする。

#### (2) 調査の対象者

調査の対象者を祖父母、知人などできるだけ身近な人とする。

#### (3) 調査の項目

調査項目は次の通りである。実際の調査用紙は聞き取ったことを記入できるようスペースを空けている。(A4用紙で4ページ)

- 1 太平洋戦争が起きた時(1941年、昭和16年)の年齢は、何歳でしたか。
- 2 住んでいたところはどこですか。
- 3 太平洋戦争が始まったことを知ったとき、どう思いましたか。
- 4 戦争中、物(物資)の不足は深刻なものでしたか。また、とくに不足していたものはなんですか。
- 5 戦争が長く続きましたが、長引くと、国民生活はどのように変わりましたか。国の統制は厳しくなりましたか。また、どのような統制がありましたか。
- 6 戦争中は、戦争についてどう思っていましたか。
- 7 終戦を知らされたとき、どう思いましたか。
- 8 戦争が終わり、変わったことはどのようなことですか。
- 9 戦争が終わり、戦時中よりも物資が豊かになってくるのはいつごろからですか。
- 10 戦後、日本は急速に復興と発展を成し遂げましたが、それを支えた力は何だと思えますか。
- 11 戦争を知らない世代が増えてきましたが、「戦争と平和」について、中学生に伝えたいこと、考えてほしいことはありますか。
- 12 調べていく中で疑問な点があれば、またお聞きしてもよろしいでしょうか。(はい いいえ)  
《自分が設定した質問項目》
- 13 聞いてみたいこと・調べてみたいこと・実際に質問したこと、調べたことなど。
- 14 調べてみてわかったこと、疑問に思ったこと、調べてみたいこと、感想を書く。

## 5 評価の観点と基準

### (1) 評価基準

【関心・意欲・態度】(項目：13、14など)

**A 基準** 自ら課題を設定している。各項目に関連して、さらに質問している。質問項目に関連して、さらに書籍、インターネットで調べている。交流会で意欲的に聞き、発表内容について質問している。

**B 基準** 与えられた質問項目について聞き取り、まとめている。(自ら課題を設定し質問はしていない。回答についてさらに質問しようとはしない。)

【思考・判断】(項目：14など)

**A 基準** 調査活動を通して歴史的事実に関連づけて具体的に記述している。調査活動前後の歴史的認識の変容を記述している。自分なりの考えが述べられている。

**B 基準** 感想が述べられてはいるが、断片的記述である。(歴史的事象どうしの関連性や発展性について述べられていない。歴史的考察がない。)

【技能・表現】

**A 基準** 調査用紙に見やすく、わかりやすくまとめている。発表交流会の際、質問項目の回答をまとめるなど、自分なりに順序だてて説明している。他の人の発表と関連づけて発表する。説明したことに対する質問に答えることができる。

**B 基準** 大きな声で落ち着いて発表している。(質問項目順の通りに、調査用紙に書いてあること読んでいる。)

### (2) 事前指導

事後の評価や指導を学習場面で生かす機会があればよいが、今回の聞き取り調査の後、同じような聞き取り調査の学習は想定していない。そこで、聞き取り調査の場を予想し、できるだけ具体的にイメージできるよう模擬インタビューを行った。「この学習で何を期待されているのか」「どのようにインタビューするのか」「インタビューしたことはどのように生かされるのか」など生徒にあるべき姿(A基準)をモデル的に、具体的に示すとともに、学習の見通しがもてるようにした。(指導の

中では「ここまでできたら『A』」などとは言わない。)適切な質問をするためには、事前に下調べが必要であり、課題意識を持って質問することに重点を置いて指導した。また、調べたことをどのように発表するのか、発表の方法や時間・発表のための準備の時間はどうなっているのかなどを事前に知らせた。まとめ・発表のあり方によって、取材の方法・程度も異なってくるからである。

## 6 項目13についての具体的な事例

聞き取り調査の中で、生徒が自ら設定した質問(質問に対する回答は省略)。(→評価A)

- ・戦争に反対した人はどうなるのか。
- ・配給制はどのようなものなのか。
- ・労働時間はどのくらいでしたか。
- ・服装はどのようなものだったのか。
- ・戦争中、嬉しかったことや楽しみはありましたか?
- ・なぜ、太平洋戦争が始まって喜んだのか。
- ・札幌の生活はわかりましたが、東京での生活はどのようなものだったのか。
- ・今の日本をどう見えていますか。

## 7 おわりに

「(略)今回、戦争について実際に体験した人から話を聞くことによって本やインターネットで調べるよりも詳しく当時の様子や祖母の感じたことなどを知ることができたと思う。これからはだんだん戦争の体験者が減っていくと思うから、私たちの世代でも戦争について伝えていけばよいと思う。」(生徒の感想より抜粋)(→評価A)

今回の聞き取り調査における対象者の年齢は太平洋戦争開戦時の年齢が4~20歳であった。この生徒が指摘しているように、聞き取り調査を行うことが難しくなっていることを感じる。

生涯学習の観点から今回の学習が、太平洋戦争を学ぶ最後の機会とは考えない。今回の学習を通してさらに意識が高まり、もう一度聞き取り調査をしてみる、別の視点から聞いてみる、など重ねて調べてくれることを期待している。授業後の感想や疑問をふまえて、もう一度インタビューするよう働きかけている。

ただし、今後の学習は各自の意識の高まりの中で行われるものであり、強制はしない。また、評定の資料にはしない。